2020年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報

科目名(英)	スポーツ社会学 (Sport Sociology)		
ナンバリングコード	E30713	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 応用レベル スポーツビジネス
単位数	2	配当学年 / 開講期	3 年 / 後期
必修・選択区分	選択:経営経済学部 コース選択必修:情報メディア学科 情報コミュコース		
授業コード	E048651	クラス名	−
担当教員名	永松　昌樹		
履修上の注意、履修条件	○配布された資料は講義に必携すること。 ○演習ノートの作成はWordを使用し、ユニバーサルパスポートを通じて課題提出すること。 ○経営経済学部の定める「受講心得等」を守ること。 ○欠席などにより、配布資料を必要とする場合は申し出ること。 ○座席の指定を行なうので、指定された座席で受講すること。		
教科書	「未来を拓くスポーツ社会学」・山田明編・(株)みらい(予定価格2.100円税別)		
参考文献及び指定図書	「スポーツの社会学」「スポーツの経済学」「スポーツの政治学」・池田勝／守能信次編・杏林書院 「生涯スポーツの社会経済学」・池田勝編・杏林書院		
関連科目	生涯スポーツ論、生涯スポーツ演習、スポーツマーケティング		

○成績評価の指標 / ○成績評価基準(合計100点)

到達目標の観点	到達目標	テスト(期末試験・中間確認等)	提出物(レポート・作品等)	無形成果(発表・その他)
【関心・意欲・態度】	予習によって生じた疑問を講義の受講によって理解を深め、さらに復習を進めること。		15点	10点
【知識・理解】	講義で取り上げる鍵概念の理解、社会とスポーツの関係を考察することを出発点とし、地域社会、国際社会へと現存する多様な問題意識を広げ、課題解決への提案作成のできる能力を得ること。		15点	10点
【技能・表現・コミュニケーション】	受講者自身のキャリアや周囲の状況と考え併せ、自らの言葉で語り記すことができること。		15点	10点
【思考・判断・創造】	受講生各自の問題意識と課題解決への提案とその独創性を作り上げること。		15点	10点

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)

予習によって生じた疑問を講義の受講によって理解を深め、さらに復習を進めることによる学修の深化を、受講生各自の問題意識と課題解決への提案内容の具体性について確認する。
各回の演習ノートの評価得点は、優3点・良2点・可1点・不可0点とする。
講義中の発表や発言の内容にテーマに対する関心・意欲・態度について確認する。
特に、独創的な考え方を論理的にコメントすることが望まれる。
提出されたレポートの学修成果・課題へのフィードバックは講義内でコメントするとともに、個々へのコメントをユニバーサルパスポートに記載する。

○授業の目的・概要等

授業の目的	人間とスポーツは、政治、経済、社会、文化、生活のあらゆる側面と深い関わりあう時代となった。国際政治や経済の動向とも相互に影響を与えあう関係にもある。この科目では、現代におけるスポーツと社会との関係を社会経済学的な観点から論考する。 受講生の日常的な生活を見つめ直しながら、社会とスポーツの関係を考察することを出発点とし、地域社会、国際社会へと現存する多様な問題意識を広げ、課題解決への提案作成のできる能力を得ることが到達の目標となる。	
授業の概要	予習では90分程度の学修が必要。講義内で指示したテキスト部分を読み終え、毎回の鍵概念と自身の生活との関係についての感想と意見をまとめることが必要となる。講義時において、各自の感想と意見を発表することが要求される。 90分の講義では、テキストでは示されていない具体的な事例や最新のニュースなどを取り上げ、スポーツ社会学の理論モデルと鍵概念の理解を深める。また、受講生各自が予習によって持ち寄った疑問を取り上げ、復習において受講生各自で作成する演習ノートの課題として提示し、解決方策を考えるうえで有用と考えられる統計などの情報を提供する。 復習では、A4版レポート用紙(2ページ分)の演習ノートを90分程度で作成し、ユニバーサルパスポートを通じて課題提出を行なう。	
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3)アクティブ・ラーニング	対話・議論型授業(グループディスカッション・ディベート) 他
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	該当しない	

○その他

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画　科 目 名 : スポーツ社会学（Sport Sociology ）　授業コード:E048651
担当教員: 永松　昌樹

学修内容

1. 現代社会とスポーツ
「有閑階級の理論」「リスボン宣言」:スポーツの社会学的研究に対する関心が急速に高まり。その必要性が盛んに論じられるようになったのは、スポーツの大衆化とそれに伴う高度化、商業化が一層進展し始めた1960年代に入ってからのことである。今後のスポーツ社会学研究の発展の可能性について論じる。

予習: シラバスの確認、「スポーツ社会学に期待すること」について400字程度のレポート作成。（約2.0h）
復習: 鍵概念と社会ならびに自身のスポーツライフの関係性について演習ノートとして作成する。（約2.0h）

2. スポーツの広がり①
「体力・スポーツに関する世論調査」「スポーツライフに関する調査」:高度経済成長、余暇社会、情報化社会を経過し、さらに消費社会へとめまぐるしく移行していく社会において、スポーツはどのような形で人々の生活の中に浸透しているのであろうか？スポーツ統計の推移をもとにスポーツがどのように普及しているのかを論じる。

予習: 配布資料の精読、「家族のスポーツ実施状況」について400字程度のレポート作成。（約2.0h）
復習: 鍵概念と社会ならびに自身のスポーツライフの関係性について演習ノートとして作成する。（約2.0h）

3. スポーツの広がり②
「スポーツ人口の階層構造」「スポーツ参加阻害因子」:スポーツ人口構造の類型化、不参加群の階層性と疑似的スポーツ参与者の特徴からスポーツから遠ざかっている人の背景について探ることは、スポーツの社会的な課題を見出すためには必須の取り組みである。スポーツ統計の結果からスポーツ参加を阻む要因について論じる。

予習: 配布資料の精読、「スポーツの不自由さ」について400字程度のレポート作成。（約2.0h）
復習: 鍵概念と社会ならびに自身のスポーツライフの関係性について演習ノートとして作成する。（約2.0h）

4. スポーツの広がり③
「女性のスポーツ」「高齢者のスポーツ」:エリアスとダニングは著書「スポーツの文明化」(1995)において、スポーツに男らしさのアイデンティティーの生産と再生産に関する二次的な補強機能を求め、一方で女性の社会化のなかにスポーツクラブの役割分担、クラブ内での俗語、競技場での応援歌などが、家族や学校、地域社会のなかで造り上げられてきた“曖昧な境界線”からなる性的分離に確固たる線引きをすると指摘している。現代社会にある女性、高齢者のスポーツ社会の課題を明示するとともに課題解決について論考する。

予習: 配布資料の精読、「スポーツの男らしさ、若々しさ」について400字程度のレポート作成。（約2.0h）
復習: 鍵概念と社会ならびに自身のスポーツライフの関係性について演習ノートとして作成する。（約2.0h）

5. スポーツの社会化①
「アヴェロンの野生児」「社会化論」:人間が社会生活を営むようになるためには、誕生してから生涯にわたるライフステージにおいて、さまざまな知識や行動様式を学習することにより、充実化が図られる。個人と他者との相互作用を通じて知識や価値、規範を学習し、社会生活における行動様式を発達させる学習の過程を「社会化」という。スポーツと社会化の関係性についてスポーツから学ぶ魅力とは何かをもとに、スポーツの社会化について論じる。

予習: 配布資料の精読、「スポーツの魅力」について400字程度のレポート作成。（約2.0h）
復習: 鍵概念と社会ならびに自身のスポーツライフの関係性について演習ノートとして作成する。（約2.0h）

6. スポーツの社会化②
「スポーツ参与の概念モデル」「スポーツへの社会化モデル」:スポーツの社会化研究はスポーツに関わる様々な人々をどのように捉えるのか？という視点から始まったのである。つまり、スポーツという人間の行為の分析枠組みの検討であるとされる。ケニヨンとマクファーソン(1973)による「スポーツの社会化理論」は“スポーツへの社会化”と“スポーツを通じた社会化”に分類する。スポーツを始める“きっかけ”とスポーツからの“学び”の社会化について論考する。

予習: 配布資料の精読、「スポーツを始めたきっかけ」について400字程度のレポート作成。（約2.0h）
復習: 鍵概念と社会ならびに自身のスポーツライフの関係性について演習ノートとして作成する。（約2.0h）

7. スポーツの社会化③
「象徴的相互作用論」「クオリティ・オブ・ライフ」:個人は他者との相互作用を通して状況を定義し解釈するが、ヒトは学習のプロセスにおいてより主体的に参加しようとする。スポーツへの参与、参加、関与は主体者だけでなく、その周囲の人々へも影響を及ぼすことが報告されている。スポーツは楽しさともに危うさも同時に持ち合わせている現状を論じる。

予習: 配布資料の精読、「少年スポーツと保護者」について400字程度のレポート作成。（約2.0h）
復習: 鍵概念と社会ならびに自身のスポーツライフの関係性について演習ノートとして作成する。（約2.0h）

8. 少子社会とスポーツ
「合計特殊出生率と平均出生児数」「スポーツ少年団」:少子化とは出生率の低下により子どもの数が少なくなることをいう。“フットボールは子どもをいち早く大人に育て、また大人をいつまでも童心へと導く”という言葉があるが、スポーツの社会では子どもという概念が大きな意味を持つ。少子化の進む社会におけるスポーツのあり方について現状と課題を論じる。

予習: 配布資料の精読、「少年スポーツの危うさ」について400字程度のレポート作成。（約2.0h）
復習: 鍵概念と社会ならびに自身のスポーツライフの関係性について演習ノートとして作成する。（約2.0h）

○授業計画　科 目 名 : スポーツ社会学（Sport Sociology ）　授業コード:E048651
担当教員: 永松　昌樹

学修内容

9. 高齢社会とスポーツ
「老年学」「レジャー白書」:高齢者のスポーツに関する社会学的な研究はレジャー社会学や老年社会学の領域で蓄積されてきた。長寿化の進む社会では多様な高齢者の生活状況に応じたスポーツ環境の整備は急務な課題となっている。娯楽、健康づくり、交流など、高齢社会とスポーツの関係性について論考する。

予習: 配布資料の精読、「長寿社会におけるスポーツ」について400字程度のレポート作成。（約2.0h）
復習: 鍵概念と社会ならびに自身のスポーツライフの関係性について演習ノートとして作成する。（約2.0h）

10. スポーツの社会的基盤
「学校体育と社会体育」「部活動とスポーツクラブ」:スポーツの社会的基盤として、スポーツを実践する場所は重要な意味を持つ。教育空間である学校では当然、教育的な配慮がなされることとなるが、一方でスポーツの持つ自由さが失われる問題も生じている。運動部活動にみるスポーツの破壊について論考する。

予習: 配布資料の精読、「運動部活動の危うさ」について400字程度のレポート作成。（約2.0h）
復習: 鍵概念と社会ならびに自身のスポーツライフの関係性について演習ノートとして作成する。（約2.0h）

11. 商業主義とスポーツ
「オリンピック憲章」「放映権料」:現代スポーツ界は「商業主義」を抜きにして考えられない状況となった。「商品化」と「利益」に大きなかかわりあいを持つようになった。大学スポーツもこの波の中にあり、大学スポーツ協会(ユニバス)創設の背景には資金不足に陥るであろう大学スポーツ社会の将来像がある。大学とスポーツとの関係性を通じて商業主義とスポーツについて論じる。

予習: 配布資料の精読、「大学スポーツの危機」について400字程度のレポート作成。（約2.0h）
復習: 鍵概念と社会ならびに自身のスポーツライフの関係性について演習ノートとして作成する。（約2.0h）

12. スポーツとマスメディア
「メディアによる制度への影響」「テレビ番組制作の3つの原理」:社会における主要なスポーツメディアはテレビとされてきた。試合中継に限らず、ドキュメンタリー、ニュースなどスポーツとの関連はテレビで放映され社会に様々な影響も及ぼしてきた。ネット社会が普及しその様相は変貌しつつある。スポーツとメディアの関係性について論考する。

予習: 配布資料の精読、「スポーツの男らしさ、若々しさ」について400字程度のレポート作成。（約2.0h）
復習: 鍵概念と社会ならびに自身のスポーツライフの関係性について演習ノートとして作成する。（約2.0h）

13. スポーツとジェンダー
「ジェンダー・ロール」「タイトルⅨ」:ジェンダーとは“社会的・文化的につくられた性別”を示す概念であり、“生物学的な性別”を意味するセックスと区別して用いられる。LBGTという概念が社会に普及しつつある現代社会においてジェンダー・アイデンティティーの確立とスポーツ環境も変化が求められることとなる。性別とスポーツについての現状と課題について論じる。

予習: 配布資料の精読、「スポーツと性別」について400字程度のレポート作成。（約2.0h）
復習: 鍵概念と社会ならびに自身のスポーツライフの関係性について演習ノートとして作成する。（約2.0h）

14. スポーツとノーマライゼーション
「パラリンピック」「スペシャルオリンピックス」:ノーマライゼーションとは障がいを持つ人々に代表されるような社会的に不利な状況にある人たちを包含する社会を通常とする考え方である。あるがままの姿で一般の人たちと同等の権利を享受できるような社会の実現を目指す必要がある。スポーツ社会における差別の存在について論考する。

予習: 配布資料の精読、「車いすスポーツの可能性」について400字程度のレポート作成。（約2.0h）
復習: 鍵概念と社会ならびに自身のスポーツライフの関係性について演習ノートとして作成する。（約2.0h）

15. スポーツの社会病理
「ドロップアウト」「ドーピング」:ドロップアウトは“離脱”を意味するが、スポーツの社会では“脱落、落伍”の意味合いが強い。競技成績の伸び悩みはドロップアウトを回避するための薬物使用(ドーピング)へと誘う。周囲からの期待に応じようと満足される結果と勝利を追い求めるアスリート、さらに指導者をも含めた社会的な問題がある。社会病理としてのスポーツについて論考する。

予習: 配布資料の精読、「スポーツのもつ依存性」について400字程度のレポート作成。（約2.0h）
復習: 鍵概念と社会ならびに自身のスポーツライフの関係性について演習ノートとして作成する。（約2.0h）

16.

予習:
復習: